

## 『郡山大会の開催』

FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会郡山大会実行委員会 委員長

医療法人仁寿会 菊池記念こども保健医学研究所 副所長

菊池医院 副院長

郡山市震災後子どものケアプロジェクト マネージャー

NPO 法人 郡山市ペップ子育てネットワーク 理事長

政府復興推進委員会 委員

菊池信太郎

未曾有と言われたあの東日本大震災から、あっという間に3年が経過しました。皆さんの日常生活の中で、震災の影響を感じずる瞬間は以前に比べ増えましたでしょうか？減りましたでしょうか？

ここ福島県郡山市は、東京電力福島第一原子力発電所から真西に約60キロに位置します。震災に引き続き発生した放射線拡散事故により、比較的高い放射線汚染地域も出現し、地域の人々は多大なる影響を受けました。3年が経過しても、震災がいまだついでこの前の出来事のように感じ、そして、私たちの日常生活にもその影響が色濃く陰を伸ばしています。例えば、地元新聞の表紙には必ず原発事故関連の記事が掲載され、家庭の庭先には除染物質が保管され、市内の教育施設や公園には放射線モニタリングポストが設置され、そして見えない敵と戦っている人々、子どもたちを必死に守ろうとしている保護者や子どもに携わる方々が沢山います。おそらく、津波によって甚大な被害を受けられた地域も、多くの問題を抱えたまま様々な傷跡が残っていることでしょう。

一方国内に目を向けてみると、ソチのオリンピック大会や2020年の東京開催に盛り上がる裏で、震災関連の記事は報道等でも目にする機会がめっきり減ってきたように思います。災害弱者と言われる子ども

たちは、この3年間をどのように生きてきたのでしょうか？そして子どもたちは今、どのような状況に置かれ、これからどのように大きくなっていくのでしょうか？

前例のない状況下で何とかして子どもたちを守ろうと、私たちは震災後間もなく郡山市、郡山市教育委員会、郡山医師会と協力し、「郡山市震災後子どもの心のケアプロジェクト」を立ち上げました。当初はPTSDの発症予防を主たる目的として、心のケアを中心に据えた活動を行い、FOUR WINDSのメンバーの方々にも大変なるご尽力を頂きました。幸い郡山市では、震災直後にPTSDの顕著な症例はなかったことで、一定の成果を上げられたのではないかと安堵する反面、時間の経過と共に、子どもたちの身体の面、保護者の心の問題、更には子どもを取り巻く環境が悪化してきている事実を把握しました。

子どもの毎日は、成長と発達時間の連続です。子どもは、年齢や環境に応じて様々な刺激を吸収して、自らの脳や体、心の発達を遂げなくてはなりません。しかし、現在の福島を中心とした地域では、外遊びの敬遠から始まった子どもたちの生活環境の急激な変化により、遊ばない子どもたち、遊べない子どもたちが増え、結果として子どもの体力や運動能力の低下が進行しています。その対策として、屋内でも十分な広さとおもしろさを兼ね備えた遊び場の設置が急務であり、震災から9ヶ月後に市内に巨大な屋内遊び場(PEP Kids Koriyama)を誕生させました。オープンから2年で65万人以上の親子が訪れています。

また、肥満の子どもたちの増加も目立つようになりました。保育・学校現場と協力し、子どもたちの成長の過程や子どもたちの生活環境を調査したところ、子どもたちの日々の生活環境を危惧する結果が散見されました。

今回の震災により、福島を中心とした被災地の子どもたちは、大きな問題を抱えることになりました。しかしよくよく考えてみると、実は同じ問題が1980年代以降、日本の高度経済成長の陰に全国的にも見られています。日本の子どもたちの成育環境の悪化が全ての始まりであり、今この問題に正面から向き合い、そして日本の子どもたちが健やかにその心と体を育める環境を創り出さなくてはなりません。

今回、全国大会の開催という貴重な機会を頂き、震災以降これまでの私たちの取組、福島や被災地での子育て現場の問題、そしてこれから何をすべきか、ここ福島県郡山から発信します。私たちは、福島の子

どもたちを『日本一元気に』します。そして福島取り組みが、ゆくゆくは日本全国に波及し、日本中の子どもが皆元気になることを信じて活動を続けます。